

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700456		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームえぞりす・花しょうぶ(えぞりす)		
所在地	河西郡芽室町東3条1丁目2番地		
自己評価作成日	令和6年1月18日	評価結果市町村受理日	令和6年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700456-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は帯広市で行われている七夕まつりへ出展をしました。入居者様にお花紙を広げて頂く地道な作業ではありませんが普段は関心を示さない入居者様も「私も手伝うよ」「これ、どうやるの?」「やるか」等、自発的な行動が見られたり、ホーム全体で楽しく取り組むことが出来ました。その人に合った個別のリハビリやレク等をし出来る喜びや活気につながっています。また家庭的な雰囲気気を継続して行なえるように家事等のお手伝いも積極的に参加していただいています。その他として季節ごとの食べ物(おはぎ、桜餅、柏餅等々)や、ならわしを大切にしており入居者様と共に作りながら季節を感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

芽室町の中心部であり、JR芽室駅から徒歩5分程度の場所に位置する「グループホームえぞりす・花しょうぶ」は、母体に札幌圏、十勝圏で多くの高齢者施設を運営する社会福祉法人三草会により平成26年に開設された。芽室町では、4事業所7ユニットのグループホーム、デイサービスセンター、介護老人保健施設等を運営している。その他、町からの委託事業も受けており、町の高齢者福祉事業の一端を担っている。町内4グループホームは共通の理念でありその他避難訓練、運営推進会議、身体拘束廃止、学習、活動委員会を合同で行っている。感染症の影響で近年は活動が難しくなっており、運営推進会議はオンライン会議を行い感染防止対策を取っていた。今年5月から感染症法上の位置づけが5類に変わり行動が緩和されたのに伴い、対面での会議や訓練を実施している。また、地域交流も中止制限していたが、徐々に交流を行っている。利用者職員と一緒に町民文化展出品作品(貼り絵)を作成したり、帯広市の七夕祭りへは飾りを出品し利用者見物に出かけている。住み慣れた地域の中で、その人らしさを尊重し、共に助け合いながら安心して生活できる温かい環境を作りを目指し笑顔のたえない暮らしを大切にすると言う理念を実践する支援を行っている。新聞紙でエコバックを作成し好評を博しており社会貢献と、利用者の満足につながる活動を行い信頼されるグループホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、ホームの玄関に掲示目に触れるようにしています。職員は理念を共有し実践出来るように取り組んでいます。	芽室4グループホーム共通の理念を定め、職員の目につきやすい場所である、事務室、玄関ホールに掲示してある。新入社員は本部がオリエンテーションで理解できるよう教育している。毎月のフロア会議では管理者からの指摘もあり、振り返りで実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナが5類になり町民文化展へ入居者様、全員が見学に行くことが出来ました。また活動委員会と入居者様で新聞エコバックを作成し、商店街に置かせて頂いています。	地域との交流は感染症流行時は中止していたが、感染症法上の位置づけが5類に変更され徐々に再開している。本年度は町民文化展への出品や帯広市の七夕祭りへの飾りを出品し見物に出かけている。中学生のボランティアや活動委員会の取り組み、新聞エコバック作成と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	芽室町主催の、ふれあい交流会に参加しGH独自の壁新聞を見て頂いたり新聞エコバックも配布させて頂き認知症の人の理解を発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが5類になったと同時に対面での運営推進会議を行なっていますがご家族の参加は難しい為、電話の時等にご意見を聞きサービスの向上に努めて行きます。	本年度5月以降はオンライン会議から対面会議に戻し開催している。地域包括支援センター、町内会役員、社協職員、利用者本人の出席を得ている。利用者家族には全員に案内をしているが出席が無く議事録配布で意見を心得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	なかなかお会いする機会は少ないですが運営推進会議以外では電話にて連絡を取り合い協力関係を築けるように心掛けています。	町担当者とは運営推進会議にて助言や指導を得ておりその他報告事項はメールでの報告になっている。その他相談事は本部の課長や事務長が対応し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の会議にはホーム長が参加し各ホームへ持ち帰り会議等で職員にも周知するように努めています。またウェブ研修、学習委員会が主催の研修で身体拘束ゼロのケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会は法人内の芽室事業所7ユニット管理者が委員となり3か月ごとに開催し、事例についての検討や研修について話し合い各ユニットフロア会議で報告している。研修については学習委員会が主催し、身体拘束や虐待防止についての内容で年2回開催し身体拘束、虐待の無い介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の身体また精神的な変化に気配りを行ない変化があった際には職員全員で話し合い虐待ゼロを目指しています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などには出来るだけ参加をし知識を深め、必要な時には、いつでも活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には契約書・重要事項説明書を十分に説明を行い理解、納得して頂き、一部ずつお渡ししています。また退去時にも不安を取り除くように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時に近況をお話したり、毎月発行の事業所のお便りで報告しています。またご家族満足アンケートを実施し要望や希望の把握に努め、サービスの向上に反映するように努めています。	利用者、家族の要望は日常の会話や面会時に把握する様努め連絡ノート、生活記録に記載して共有し実現できるように取り組んでいる。家族へは毎月担当者から一言メッセージを記載している通信を発行し様子を知らせている。また、本部で家族アンケートを実施し満足度や要望を把握しサービス向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のフロア会議にて職員の意見や提案を聴く機会を設け反映できるように努めています。普段より意見交換のしやすい環境づくりを心掛けています。また職員の意見を取り入れた目標管理シートを作成し統一されたチームケアに取り組んでいます。	職員の意見や提案は日常の業務の中や、毎月のフロア会議の場面で発言の機会を作り把握している。その際、議題の提案や意見がある時は事前に提出を求めている。職員は利用者担当や学習委員会、活動委員会の役割を担い、目標管理シートで目標を定め介護の質の向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力・実績等を把握するようんじに心掛け、負担がかからないような勤務体制作りを工夫し常に工場を持って働けるような環境、条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症が5類になった為、勤務体制の調整を行ないグループホーム勉強会、施設内研修、施設外研修、オンライン研修に積極的に参加出来るように努めています。参加後は報告書を提出し、フロア会議で意見交換を行ない情報の共有に努め職員の知識・意欲の向上につなげるように心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内グループホーム交換研修を実施したりグループホーム勉強会でのグループワーク、各委員会などでグループホーム内の交流を行なっています。以前はめむろケアカフェに参加していました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけご本人の生活の場でアセスメントするように努めています。ご本人からの訴えを見過ごす事が無いように、お話に耳を傾け聴き、不安や要望をしっかりと受け止め安心して生活出来るように心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面接や契約時に、ご家族の不安や要望をお聞きし支援を行なうように努めています。また入居後も面会時や電話等で情報交換を行ない思いを汲み取るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴を把握する為、ご本人やご家族と積極的に対話するように努め、他サービス利用の必要がある場合は関係機関より情報を収集し速やかに対応出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、その人に出来る作業やお手伝いを一緒にすることでコミュニケーションを図り、また暮らしを共にし支え合える関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい環境作りを心掛け、面会時には積極的に会話をしています。その中で、ご家族の思いを把握し共に入居者様を支える事が出来る関係作りを努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族の美容室へ出掛け、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。	感染症の流行でここ数年は面会や外出を中止し、馴染みの場所への訪問や知人の面会は行われていなかったが、感染症法上5類への変更で美容室への訪問や商店での買い物に出かけている。知人の訪問があり関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様は孤立せず居間や食堂で過ごされお話ししたりレクリエーション等で交流を図っています。耳が遠い方は職員が間に入り交流のお手伝いを行っています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度も行えていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り職員は入居者様とお話する機会を作り、その際、会話や表情、思いや意向を把握する事に努めています。	利用者の思いや暮らし方の意向は日常の会話の中で把握しており、「私の暮らし方シート」を見直しながら情報を共有して実現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からお話をお聞きし必要時には関係機関より情報を提供して頂き支援に活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々現状把握に努めご本人が出来る事は積極的に行なって頂き、変化があれば生活記録や連絡ノートを活用し職員全員に周知し把握出来るように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一覧表にて排便チェックを行ない食事や水分量にも気を配り、乳製品も出来る限り摂って頂いたり、またラジオ体操やフロア内の歩行運動等の適度な運動も取り入れて頂くよう支援しています。	介護計画は基本的には6か月ごとに利用者、家族の要望を把握し、毎月のフロア会議でのカンファレンス、担当者のモニタリング、サービス担当者会議を経て見直しを行っている。職員は連絡ノート、生活記録を詳細に記入し見直しにつなげ現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の現状を記録し職員間では連絡ノートを活用し常に新しい情報を共有出来るように努めています。またチームケアの実践や介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じてご本人、ご家族のニーズに対応出来るよう必要に応じて本体の老健の関係者へ相談を行ない意見を頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め入居者様が安全で安心して豊かな生活を楽しめるように支援させて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でホームの主治医に往診して頂き、継続的な医療を提供しています。専門医受診の際には主治医より書面を頂きご家族に受診をして頂いています。受診時は受診経過表へ、往診時には生活記録に個別に記入しています。	基本的には利用者のかかりつけ医への受診を行っているが、全員が協力医が主治医になっており毎月2回の往診を受けている。その他の科への受診は家族にお願いしその際添書で情報を提供し適切な医療が受けられるように支援している。	

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に変化や気になる事がある場合には直ぐに相談し入居者様の健康管理に適切な対応が出来るように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には書面にて日常生活、注意点等を資料としてお渡ししています。入院中もご家族、病院関係者との連携を密に取り退院後も安心した生活が出来るように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書に記載されている重度化した場合における指針を説明し、ご本人やご家族の希望を確認しています。必要時には主治医、ご家族、関係者で早い段階から話し合いをし方向性を共有するように努めています。	利用契約時に重要事項説明書の中の「重度化した場合における(看取り)指針」で説明し、利用者、家族、医療機関、事業所の連携のもと取り組めることを説明し理解を得ている。近年は医療機関での対応が多く看取りは行われていないが、来年度には職員への研修に取り組む予定となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の自己学習にて実践力を身に着つけ事故や急変時に早急に対応が出来るように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回、夜間想定で行なっています。ケア別対応も出来るようにフロア会議にて話し合っています。	避難訓練は年2回夜間想定で消防署の指導、助言を受けながら行っている。非常事態の時は各ユニット管理者に緊急連絡が行われている。また、懸案となっていた停電時の寒さ対策等は本部での石油ストーブ各ユニット2台を確保し備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し思いやりのある対応を常に心掛けています。記録は鍵のかかるロッカーに保管しています。	利用者一人ひとりの人格を尊重し誇りを損なわない対応を心がけている。特に言葉遣いについては馴れ合いにならないよう管理者、職員相互に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が困難な方もいらっしゃいますが、なるべくご本人の思いを汲み取る努力をしています。自己表現が出来る方には自己決定をして頂けるように会話に工夫をする場面を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先するのではなく1人ひとりの表情を観察しながら、その人のペースを大切に希望に沿って支援が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、その人らしい身だしなみが出来よう支援しています。また毎日着る洋服は一緒に選んで頂いています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の有する力に合わせた食事の準備、盛り付けや片付け等を入居者様と職員と一緒にこなしています。誕生会等の特別メニューでは入居者様の希望をお聞きしています。	献立は栄養士が作成するようになりバランスの取れたメニューを作成している。調理は専門職のいるユニットもあるが介護職員が行い、利用者と共に準備等を行っている。行事には季節の料理、誕生日には希望する食事を用意し喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事形態を把握し適切な食事量、栄養のバランスが確保出来るように努めています。水分摂取は一覧表に記入し目標数量も設置し職員全員が把握出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ない、その方の力に応じ職員が支援しています。また必要な方には定期的に歯科医師に往診して頂き処置をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄を一覧表に記入しタイミングを把握出来るようにし、間隔や本人の状態、意思表示により声かけや誘導を行ない自立した排泄が出来るよう支援しています。可能な限り布パンツにパッドで対応しています。	利用者一人ひとりの排泄記録を付け、その人の状況や状態を確認しながら、タイミングを見て声かけを行い支援している。その際の声かけには羞恥心が起きないように配慮している。また出来るだけ布パンツ、パッドで対応できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一覧表にて排便チェックを行ない食事や水分量にも気を配り、乳製品も出来る限り摂って頂いたり、またラジオ体操やフロア内の歩行運動等の適度な運動も取り入れて頂くよう支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意向、体調、希望に考慮し最低週2回は気分よく入浴をして頂けるように支援しています。	入浴は週2回を基本としその日の利用者の状態や状況を考慮している。現在入浴が特に困難な利用者はなく、入浴剤を使用しながら楽しい入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に合わせた休息を取って頂いています。出来る限り日中は適度な運動やレクリエーション、作業に参加して頂き夜間は良眠出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋を確認し服薬についての理解、把握に努めています。変化があった場合の対応として連絡ノートを活用し周知状態の変化については常に確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年度は外出レク、ドライブに出かける事が出来ました。また気温の高い日には外気浴をし季節を感じています。日々その方の好む作業やレクリエーションを提供し役割のある生活を送っていただけるように努めています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(えぞりす)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外部との接触が少ないように感染対策を取りながら外出レクやドライブ、暖かい日には外気浴をし季節を感じています。今年度も日にちを分け全員で町民文化展へ出掛けてきました。	外出はコロナウイルス二類時には控えていたが、五類移行後は感染対策を取りながら行っている。町内の公園や花見、紅葉見物、夏には近隣市の七夕祭りに出品した飾りを見にいたり、町内文化展に見物に出かけている。日常は近隣を散歩し気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談の上ホームでお預かりし管理させて頂いています。購入したい物があれば職員が代行しています。今年度も一緒に買い物に出かける機会はありませんでした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年度は入居者様が大切なご家族へ暑中見舞いを書き送らせていただきました。またご家族からの電話に少しではありますがご本人とお話していただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで光を調節したり、温度計を設置し快適に過ごせるように管理し家庭的で落ち着ける空間作りに努めています。また入居者様と一緒に作成した創作物を壁に展示したり廊下には行事ごとの写真を掲示し入居者様にも楽しんで頂いています。	建物の二階、三階に各ユニットがあり、二方向に窓があり、明るいリビングと成っている。温湿度や換気に気を使い環境に配慮している。文化展への出品作品や利用者と一緒に作成した貼り絵や写真を飾り楽しい雰囲気になりよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂で過ごされている事が多く自然と居場所も決まっており、お話しされたり歌を歌ったり独りになれたりと思い思いに過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの物をお持ちいただくようお話ししています。入居者様一人ひとりが使用しやすいように、それぞれの物の配置も違いご本人、ご家族とも相談しながら居心地がよく安全に過ごせるように工夫しています。	居室にはクローゼット、ベットが備えられており、利用者は自宅から使い慣れた筆筒や椅子等の家具を持参している。故人を偲び遺影を立てていたり、家族の写真、絵を飾り自宅同様に過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の場所がわかりやすいように札や表札をつけ、目につきやすい高さや位置にも工夫しています。車椅子の方や歩行器の方にも手すりを活用していただき自立支援を行なっています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700456		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームえぞりす・花しょうぶ(花しょうぶ)		
所在地	河西郡芽室町東3条1丁目2番地		
自己評価作成日	令和6年1月18日	評価結果市町村受理日	令和6年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0194700456-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は帯広市で行われている七夕まつりへ出展をしました。入居者様にお花紙を広げて頂く地道な作業ではありませんでしたが普段は関心を示さない入居者様も「私も手伝うよ」「これ、どうやるの?」「やるか」等、自発的な行動が見られたり、ホーム全体で楽しく取り組むことが出来ました。その人に合った個別のリハビリやレク等をし出来る喜びや活気につながっています。また家庭的な雰囲気や継続して行なえるように家事等のお手伝いも積極的に参加していただいています。その他として季節ごとの食べ物(おはぎ、桜餅、柏餅等々)や、ならわしを大切にしております入居者様と共に作りながら季節を感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、ホームの玄関に掲示し目に触れる様にしています。職員は理念を共有し時にはフロア会議で改めて確認して実践出来るように取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も町民文化展には出展し自分たちの作品を見学に行きました。夏には帯広市の七夕祭りに吹き流しの作品を出展し全員ではありませんが何人かと職員で見学に行きました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	文化展にて作品の他にグループホーム活動委員会としてグループホームとはの壁新聞を出展し地域の方達に認知してもらう様に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様の会議への参加はないですが面会時や電話時にホームに対してのご意見や疑問事などを聞きサービス向上に努めています。町内会長さんや地域包括の方には大変な中、色々工夫され行なっていますねとお言葉を頂いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中々お会いする機会は少ないですが緊急の場合は電話でお話ししたり、困りごとは課長や事務長通して解決できる協力関係を築けています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者会議にて身体拘束廃止委員会を行なっているので各ホームに持ち帰り周知する様にしています。又、各ホームでの困りごとは課長に相談し会議の場で話し合うサイクルは確立されています。各ホームでは資料を常に目の通せる所に掲示し身体拘束ゼロのケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や講習には出来る限り参加するようにしています。職場内は話しやすい環境作りにも努め虐待ゼロを目指しています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方はおりませんが、研修などに出来る限り参加して知識を深め、必要時には何時でも活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には契約書、重要事項説明書の説明を行い理解、納得して頂き、各一部お渡ししています。都度、疑問に思った事を聞いて頂ける雰囲気や関係作りに努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会や電話時に意見や要望を確認しています。又、ご家族満足でアンケートを実施し率直な意見などの把握に努めサービス向上に反映するようにしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のフロア会議や普段から意見交換しやすい雰囲気作りに努めています。各職員の意見を反映させた目標管理シートを作成しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の努力や実績などを把握する様に心がけ、負担にならないような勤務体制作りを工夫し常に向上心を持って働けるような環境、条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会の機会は確保され、各自の意思にて参加しています。又、技術面で不安な箇所は普段より話しやすい雰囲気作りに気を付けて都度話し合えるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行なえていません。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの訴えを見過ごすことなく、お話を聞き不安や要望をしっかり受け止め安心して役割の持てる生活を送って頂けるように心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様の不安や要望をお聞きし支援を行なう様に努めています。入居後も面会や電話時には情報交換を行い思いをくみ取るように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴を把握する為、ご本人やご家族と積極的に話すように努め、必要に応じて法人の課長に相談し速やかに対応出来る様に心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でその人にできる作業やお手伝いを一緒にする事でコミュニケーションを図り、より綿密な関係を築ける様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい環境作りに努めています。面会や電話時には積極的にお話しご家族様の思いを把握し共に入居者様を支える事ができる関係作りを心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの外出にてバスより見える畑を見て何が植えているかを話したり、まだ直接行く事は叶わないですが馴染みの店の前を通ったり、町内の昔からのパン屋さんで購入したパンを味わったりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様は居間や食堂にて過ごされる事が多く、楽しくお話ししたり全員でレクリエーション等で交流を図っています。不都合が生じた場合は職員が間に入り支援を行なっています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今迄は病院や他施設へ面会に行っておりましたが、近年はコロナでそれも行なえていません。その職員さんにお会いした際には現況を尋ねる事があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は出来る限り入居者様とお話する時間を作り、会話や表情より思いや意向を把握することに努めています。気付きを「私の暮らし方シート」を活用して記入して変化を知るようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からお話を伺い、必要時には関係機関から情報提供して頂き、支援に活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々現状把握に努めて、自身で出来る事は積極的に行なって頂き、変化があれば生活記録や連絡ノートにて職員全員に周知し把握できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望や要望の把握に努め、毎月のカンファレンスを参考に担当者がモニタリングを行ない、現状に沿った介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の現状を記入し申し送り職員間には常に新しい情報を共有できるように努め、支援や実践や介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じてご本人、ご家族のニーズに対応出来るように、必要時には法人の課長に相談を行ない意見を頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、入居者様の安全で安心して豊かな生活を楽しめる様に支援させて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でホームの主治医に往診して頂き、継続的な医療を提供しています。専門医受診の際には主治医より書面を頂きご家族様に受診して頂きます。受診時は受診経過表に往診時は生活記録に個別で記録しています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に気になる点や変化がある場合には相談して入居者様の健康管理に適切な対応ができる様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際にはその方の日常生活、注意点などを書面にて資料としてお渡ししています。入院中もご家族、病院関係者との連絡を密に取り退院後も安心した生活が送れるように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書に記載されている重度化した場合における指針を説明し、ご本人やご家族の希望を確認しています。必要時には主治医、ご家族、関係者で早い段階から話し合いをして方向性を共有するように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の自己学習にて実践力を身に付け急変時や事故時に早急に対応出来るように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回は実施し一度は夜間想定で行われています。地震想定はホーム内の危険箇所を確認しケア別対応も出来るようにフロア会議にて話し合っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様1人ひとりの人格を尊重し思いやりのある対応を心掛けています。記録は鍵の掛るロッカーで保管を行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話をする機会を作る事に努め、ご本人の思いをくみ取るようにし、出来る限り自己決定をして頂けるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先させる事なく、1人ひとりの表情を観察しながらその方のペースにて希望にそった支援が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、その方の希望された身だしなみが出来るように支援しています。又、毎日着る服を一緒に選んだりもします。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の有する力に合わせた食事の準備、片付け等を一緒に行なっています。誕生日メニューの献立は入居者様の希望を伺い作成するように心掛けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事形態を把握し適切な食事量、栄養のバランスが確保できるように努めています。水分摂取は一覧表に記入し目標数量を設置し職員全員が把握出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、その方の力に応じ職員が支援しています。又、必要な方には定期的に歯科医師に往診して頂き処置をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄を一覧に記入しタイミングを把握できるようにし、間隔や本人の状態、意思表示により声掛けや誘導を行ない自立した排泄ができる様に支援しています。可能な限り布パンツにパットで対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一覧表にて排便チェックを行い食事や水分量にも気を配り、乳製品も出来る限り摂って頂いたり、ラジオ体操やフロア内の歩行運動などの適度な運動も取り入れて頂くよう支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意向、体調、希望等を考慮し最低週2回は気分よく入浴して頂けるように支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの習慣に合わせた休息を取って頂いています。出来る限り日中は適度な運動やレクリエーション、作業に参加して頂き夜間は良眠できる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋を確認し服薬についての理解、把握をするように努めています。変化があった場合の対応として連絡ノートを活用して周知し、状態の変化については常に確認を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染対策をしっかりしホームでのドライブや建物前での外気浴などで季節を感じてもらっています。又、日々その方が好む作業やレクリエーションを提供し役割のある生活を送って頂けるように努めています。		

グループホームえぞりす・花しょうぶ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花しょうぶ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出は出来ませんが感染対策をしてお天気の日には個別に周辺の散歩に出掛ける事はあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談の上ホームでお預かりし管理させて頂いています。購入したい物があれば職員が代行したり、家族へ電話しお願いする事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望にてご家族へ電話を掛けたり、遠方のご家族様とはテレビ電話でお話する事もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで光を調整したり、温湿度計を設置し快適に過ごせるように管理し、家庭的で落ち着ける空間作りに努めています。又、入居者様と一緒に創作物を作成し展示したり、廊下には行事ごとの写真を掲示し目で楽しんで頂けるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様、居間や食堂で過ごされる事が多く、自然と居場所も決まっている様子。個別にお話ししたり、皆さんでレクの後お話ししたり、歌を唄ったり、1人でテレビを見たりと思い思いの過ごし方が出来ていると思います。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は馴染みの物をお持ち頂く様にお話しています。入居者1人ひとりが使用しやすい様、それぞれの物の配置も違いご本人、ご家族と相談しながら居心地良く安全で過ごせるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の場所がわかりやすい様に札を付け目のつきやすい高さや位置にも工夫しています。車椅子の方にも手すりを活用し自立支援を行なっています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームえぞりす・花しょうぶ

作成日：令和 6年 2月 22日

市町村受理日：令和 6年 2月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の応援体制について。	町内会の皆さんに協力してもらえるような体制作りに努める。	避難訓練時には町内会の皆様方に広く参加して頂き、災害時に協力していただけるような体制作りに努めます。(皆さまが無理であれば代表して会長だけでも参加して頂く)	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。